



250字のつぶやき大募集！

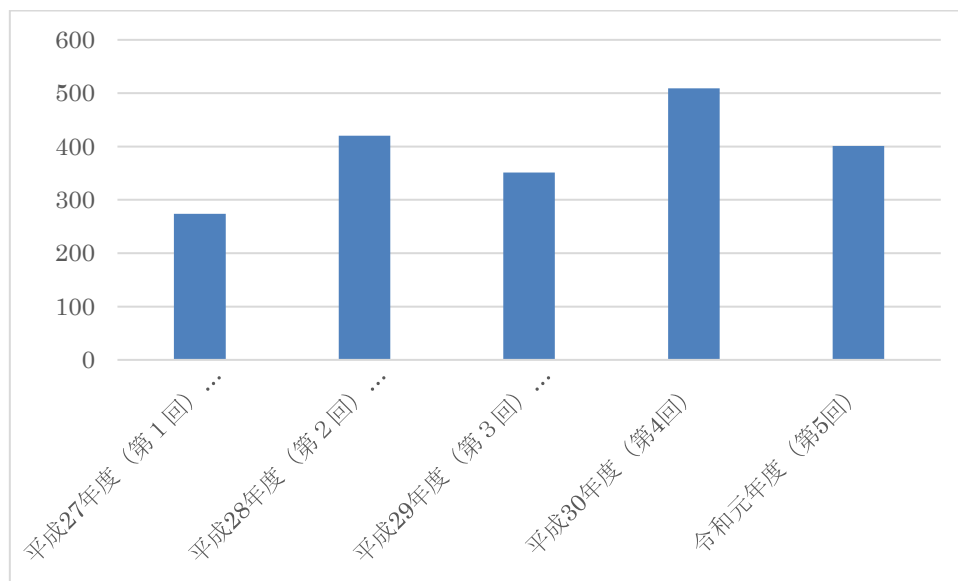


第5回

「仕事のルビー 働くサファイア」
～働く私を動かした言葉や出来事～
入選作品発表

当 NPO では、「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」として、職業キャリアに関する 250 字の投稿企画である第5回「仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～」を募集し、応募作品 401 点の中から入選作品 5 点を決定しましたので発表いたします。

《父の言葉》が キラリしごと大賞 に！



【募集概要と応募結果】

■企画趣旨 わが国では、現在、約 6,628 万人の人々が働いておりますが、働く人一人ひとりの職業キャリアには、必ずキラリと光る言葉や出来事があったはずです。それを 250 字の投稿によって、働くことの意義や仕事のやり甲斐を共有し、「仕事とキャリアのアーカイブ」として集積し保存していくことを目的としています。2016 年以降 4 回実施し、いずれの年も専門誌やWEBサイトに掲載されるなど反響を頂いており、この度第5回の募集をいたしました。

なお、第3回からは「障がいのある人としごと～懸命に働く ともに働く～」をテーマとする「ガーネット賞」を株式会社イフの協賛のもとスタートしております。

■**募集内容** 働く私を動かした言葉や出来事に関する 250 字のつぶやき
テーマ例：「仕事で励まされた一言」、「仕事で転機になったこと」等

■**表彰** 「キラリしごと大賞」(1名)：賞状と副賞(3万円図書券)、「サファイア賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ルビー賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ガーネット賞」(2名)：賞状と副賞(1万円図書券+イフ賞1万円クオカード)

■**応募数**：401件(男性：164件[40.9%] 女性：237件[59.1%])。第1回は274件、第2回は420件、第3回は、351件、第4回は、509件。第1回から第4回まで総合した男女比は、男性39.9%、女性60.1%だった)

■**応募年齢**：10代から80歳以上まで。職業も建具業、保育士、看護師、教員、医師、公務員、塾講師、番組制作、会社員、退職後主婦、定年後の方、パートアルバイト等様々。

■**応募者の在住地域**：日本国内は北海道から沖縄・九州まで(最多は関東地方、次いで近畿地方)。外国では、英国、スペイン、ドイツ連邦共和国、フランス共和国(50音順)。

■**選考** 2020年2月28日(金)に応募を締め切り(募集開始時のマスコミリリースは2019年11月22日、直後にホームページにおいて公表)、4月20日(月)に認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク選考委員会による選考を行いました。

■**選考委員**：委員長／諏訪康雄理事長
副委員長／菊池桃子理事(女優・戸板女子短期大学客員教授)
委員／当NPO担当部長、(株)イフ 川崎芳清社長

■**主催** 認定NPO法人 キャリア権推進ネットワーク

2020年6月15日
認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番14号 新槇町ビル別館第一
理事長 諏訪康雄
お問合せ先 広報部長 川野晋太郎 (090-6954-1270)
Email : info@career-ken.org
URL : <http://www.career-ken.org/>

【認定 NPO 法人 キャリア権推進ネットワークについて】

当 NPO は、働く人々が希望する仕事を自ら選択し、仕事を通じて幸福を追求する権利である「キャリア権」の理念を広く社会に普及、浸透させることを目指して平成 25 年 4 月に発足し、そのための諸活動に取り組んでいます。

グローバル化、知識化する現代社会においては、働くために求められる新たな知識、技術、技能を習得する必要性が一層高まっており、また、人口、労働力の減少、高齢化が加速するなかで社会の活力や産業企業の競争力を維持、向上していくためには、働くことを希望するすべての人々が意欲に溢れて働くことができ社会を支える側に立ってもらえるようにすることが何よりも重要です。

性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず誰もが十分な職業能力を身につけることができ、その能力が高く評価される社会、会社が変わってもそれまでの経験や知識、技術、技能が正当に評価される社会、職業生活の全期間を通じて一人ひとりのキャリアが断絶することなく可能な限り継続できる社会の実現を当 NPO は目指します。

このため、企業には人事に当たり社員のキャリアの形成、展開に配慮されること、行政には雇用、教育等の政策の立案、推進においてキャリア権の尊重、保障を考慮すること、司法には労働関係の裁判、審判においてキャリア権の理念が浸透することを目指して、働く人々、企業、労働組合、学校、行政、志を同じくする NPO 等と幅広く連携し効果的な活動をしています。



第5回 仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～ 入選作品

■キラリしごと大賞

ペンネーム ぽぽママ 様 東北在住 50歳代

「父の言葉」

もう25年も前のことです。正社員の仕事をちっぽけな理由で辞め、悠々自適な実家暮らしのバイト生活をしていた時、突然父が倒れました。そしてあっけなく運ばれた病院で56才の若さで亡くなってしまいました。父との最後の会話は「大丈夫だからバイトに行け」今でもあの光景はわすれられません。家族の為に懸命に働いてくれた父の言葉が、いい加減だった私を目覚めさせてくれました。それから就活し、就職し今の私がいます。初ボーナスで買った冷蔵庫は、つい最近役目を終えました。

<ご本人コメント>

この度は大賞に選んで頂きましてありがとうございました。思いもよらない入選のメールに、ただただ驚くばかりでした。父との思いでのエピソードがこの様な賞に繋がるとは…父も、何処かで笑っているかもしれませんね。

もうすぐ父の年齢を越してしまう今、思うのは娘に自分が残せる事は何か…です。これから先、色々な場面で沢山の人と繋がりを持つなかで、親が教えられなかった事を学んでいくことでしょう。

私から娘に今言えるのは、当たり前前を当たり前と思わずに、全ての事に感謝を忘れずいて欲しい。仲間がいること、仕事があること、愛する人が居ること、生きているということ。それだけです。



■ルビー賞

ペンネーム 鈴木もり 様 関東在住 20歳代

「心のサービス残業」

お客様から厳しいご意見を頂くことの多かった前職。辛いお言葉に涙する日もあったが、当時の上司から「いちいち悩んで家に持ち帰ってたら永遠にサービス残業。お金も出ないし、違うこと考えようよ!」と言われ、目からウロコだった。上司や同僚からの嫌な言葉、お客様からのご意見。仕事の苦しみを家に持ち帰ったら、それは、金銭の発生しない「心の残業」だったのだ。以来、ふと苦情を思い出したら「あ、また心の残業してたな」と思うようになり、心が軽くなった。もう連絡も途絶えてしまったけれど、上司さん、ありがとうございました。

<ご本人コメント>

このような素敵な賞をいただくことができ驚いています。とても嬉しく思うと同時に、「心のサービス残業をするな」というメッセージを下された当時の上司に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。素晴らしい上司に恵まれて幸せでした。しばらく疎遠になっていますが、これを機にまた連絡を取ってみたいと思います。ありがとうございました。



■サファイア賞

ペンネーム Y.Y 様 関東在住 40 歳代

「自信を持って進むこと。」

育児休暇を経て職場に復帰した頃のことだ。

同僚との関係に、それまで経験したことのなかった軋轢が生じ始めた。時短で早く帰る私に向けられた冷たい視線を、今でも時々思い出すことがある。当事者は、制度を使って当然だと思っているわけではないのだ。迷ってばかりの時期、ふと目にした言葉がある。

「条件が揃うのを待っていたら、人生は終わってしまう。」

以来この言葉を胸に、自信を持って前に進めるようになった。当時、理解を得ることは出来なかったが、後進に道を開くことは出来た。今はそのことに、大きな誇りを持っている。

<ご本人コメント>

この度は素敵な賞を頂き、有り難うございます。

仕事を得、社会との繋がりを持つことは、今もなお私自身の人生において大きな意味を持ち続けています。若い時代に経験した色々のことが道標となり、結果として今の自分を作りました。新しい世界に身を投じることで、強さやより深い考えを身につけることも出来ました。若者だけでなく、全ての世代の人が、大志を持って自分らしく働くことの出来る社会になっていくことを願っています。



■ガーネット賞

ペンネーム まりも 様 関東在住 40 歳代

「スポットライト」

発達障害の私の夢がついに叶った。
図書館で働くということ。私が一番好きな仕事は選書。
選んだ本を、目立つ場所に展示。先輩は手早く、私はいつもモタモタ。
却下されへこむ事も度々ある。
でも、それまでひっそりと本棚に埋もれていた本に命が吹き込まれたような、
彼らにスポットライトが当たったような嬉しい気持ちになる。
先日、私が選書した本が利用者さんの目に留まり、初めて貸し出しをされた。
先輩と一緒にガッツポーズ！また次の夢が出来た。
司書になり、本と利用者さんとを繋ぐ架け橋になりたい。

<ご本人コメント>

この度は、素晴らしい賞をありがとうございます。
タイトルのように、スポットライトが当たったような嬉しい気持ちになりました。
私は障害を隠し、就労出来ない辛い時期もありました。
発達障害は、見える障害ではないので理解されにくく、認知されるには時間が掛かるかもしれません。
ですが障害者にとっても、働くことは喜びであり、仕事を通して社会に関わる事は生きがいにも繋がります。
障害者が、参加しやすい職場環境が増えるよう切に願っています。
今後も働けることに感謝し、目標にまい進していきたいです。



■ガーネット賞

ペンネーム 佐々木 良子 様 関東在住 40 歳代

「背中」

宅建、簿記、保険、タイピング。全ての資格が絵に描いた餅になった。
手も足も動かない。動かないどころか、一人では座ることさえできない。
不慮の事故で全身麻痺となった。
ついでにシングルマザーにも。
一度は働くことを諦めた。それでも親として、息子たちに見せられる背中になりたくて、僅に動いた左手に装具をつけて、自身の体験をスライドにまとめてみた。藁をもすがる思いで、リハビリや看護学校宛に資料を送った。幸い、その中の一校から講義依頼が来た。諦めるのはまだ早い。私には、命があるのだから。

<ご本人コメント>

この度は、栄誉ある賞を頂きまして、ありがとうございます。
全身麻痺のシングルマザーになって15年。
幼かった息子たちも、高校生、大学生へと成長しました。私は一人ではありませんでした。たくさんの方たちに支えられて、今日まで生きることができました。これからも、感謝の気持ちを左手のペンに託して綴っていかれたらと思います。
息子たちに恥じない「背中」であるために。